



環境省

エコアクション21

認証番号 0013567

エコアクション 21 環境経営レポート

2023年度版

(運用期間:2023 年 8 月～2024 年 7 月)

汚水・汚泥処理・清掃

コバキュー

にお任せください！



発行:2024 年 10 月 19 日

株式会社 コバキュー

〒905-2173 沖縄県名護市久志 790-2

TEL 098-972-5001

FAX 098-975-5020

目 次

1. 組織の概要	1
2. エコアクション 21 の対象範囲	5
3. 環境経営方針	6
4. 環境経営目標	7
5. 環境経営計画	8
6. 環境経営計画に基づき実施した環境への取組	9
7. 環境経営目標の実績	13
8. 環境経営計画の取組結果と評価	15
9. 次年度の取組	16
10. 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無	17
11. 代表者による全体評価と見直しの結果	18

1. 組織の概要

(1) 事業社名及び代表者名

事業所名:株式会社 コバキュー

代表者名:代表取締役 小橋川 順史

(2) 所在地

本 社 :〒904-2202 沖縄県うるま市天願 61-1

TEL098-972-5001 FAX098-972-5020

処分場 :〒905-2173 沖縄県名護市久志 790-2

TEL/FAX0980-55-3633

(3) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者:小橋川 凜

担 当 者 :小橋川 凜

TEL : 080-8374-9520

FAX0980-55-3633

E-mail:rin@kobakyu.co.jp

(4) 事業規模

設 立:2012 年 8 月 1 日(12 期目)

年 商 :35900 万円(第 12 期)

資 本 金:600 万円

事業年度:8 月～翌年 7 月

従 業 員:15 名

(5) 事業内容

産業廃棄物収集・運搬業務

産業廃棄物処分(中間処理)

無機性汚泥の脱水、有機性汚泥の脱水、無機性汚泥の造粒固化、廃油の油水分離

URL: <http://www.kobakyu.co.jp>

(6) 許可番号及び登録証(内容)

① 産業廃棄物収集・運搬業許可証

許可番号 :第 04702193214 号

許可年月日:令和4年(2022 年)1 月 5 日

有効年月日:令和9年(2027 年)1 月 4 日

事業の範囲:

燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、動物のふん尿、動物の死体
(これらのうち石綿含有産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物を除く。積み替え保管を含まない。)

② 産業廃棄物処分業許可証

許可番号 : 第 04721193214 号

許可年月日: 令和 4 年(2022 年)1 月 26 日

有効年月日: 令和 9 年(2027 年)1 月 25 日

事業の範囲:

■ 中間処理(これらのうち、水銀含有ばいじん等及び特別管理産業廃棄物を除く)

(脱 水): 汚泥

(造粒固化): 汚泥(無機性のものに限る。)

(油水分離): 廃油

■ 事業の用に供するすべての施設

脱水施設1(遠心分離機(スラリーデカンタ JS-500D)、高圧フィルタープレス(KFP-1200×31))

処理能力: 汚泥(無機性) 100m³/日(8時間) 12.5m³/時間

脱水施設2(Z18-V-BS)

処理能力: 汚泥(有機性) 8m³/日(8時間) 1m³/時間

造粒固化施設(自走式土質改良機 MR126)

処理能力: 汚泥(無機性) 400m³/日(8時間) 50m³/時間

油水分離施設(遠心分離機(MJ-HC50ES-HN))

処理能力: 廃油 8.64m³/日(8時間) 1.08m³/時間

保管施設1(脱水施設2に係る保管施設)

設置場所: 沖縄県名護市字福地原 790-2

汚泥(有機性): 保管面積 10m² 保管上限 20m³ 保管高さ2m

保管施設2(油水分離施設に係る保管施設)

設置場所: 沖縄県名護市字福地原 790-2

廃 油: 保管面積 8m² 保管上限 10m³ 保管高さ 1.25m

③ 産業廃棄物処理施設設置許可証

許可番号: 第 960113 号

許可年月日: 令和 2 年(2020年)6 月 18 日

処理能力: 100m³/日(8時間) 12,5m³/時間

産業廃棄物の種類: 汚泥(無機性)

処理後の条件:

1) 処理後の脱水液は、そのまま施設外に排出せず、排水処理施設で PH 調整、重金属類除去等の適正な措置を行った上で中水等に利用すること。

2) 環境保全上の問題が生じた場合は、原因を究明し、誠意を持って対策を講じること。

④ 建設業の許可票

許可番号: 沖縄県知事許可(般-2)第 14232 号

許可年月日: 令和 3 年(2021 年)1 月 8 日

許可を受けた建設業:

土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業、解体工事業

⑤ ゆいくる認定証 認定 12-31 号

認定資材の品目 : 再生資源含有土砂代替材

認定資材名 : かいりょうどー

認定年月日 : 新規 平成 30 年(2018 年)12 月 3 日

更新 令和 4 年(2022 年) 3 月 1 日

認定の有効期間 : 令和 7 年(2025 年)2 月 28 日

工場等の所在地及び名称 : 沖縄県名護市字久志福地原 790 番 2

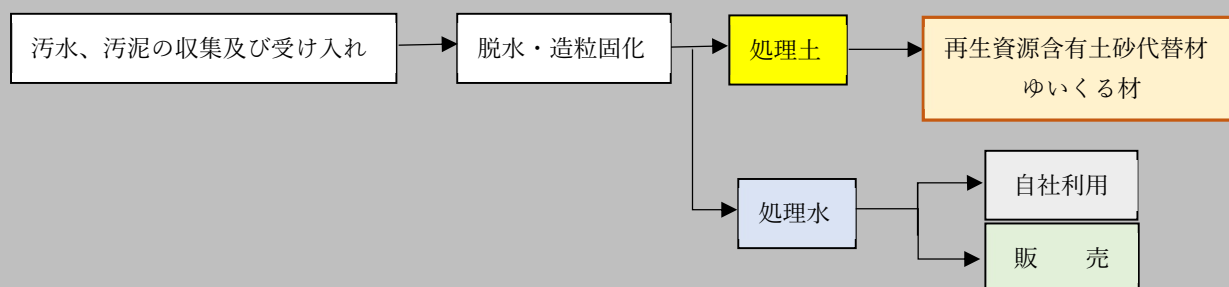
株式会社コバキユウ

認定の条件 : 沖縄県リサイクル資材評価認定制度実施要領に定めるとおり

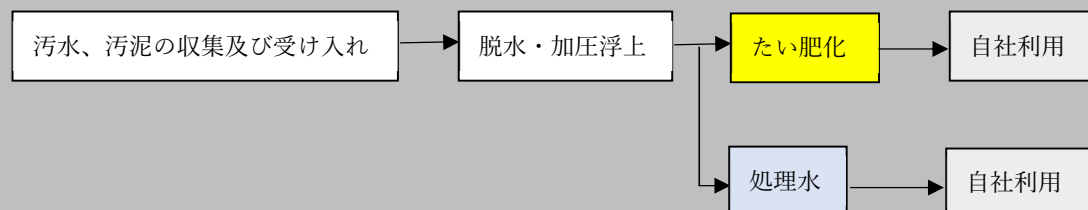


(7) 処理工程図

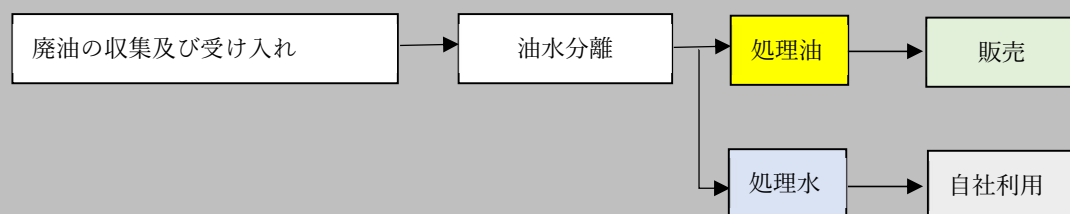
(無機性)



(有機性)



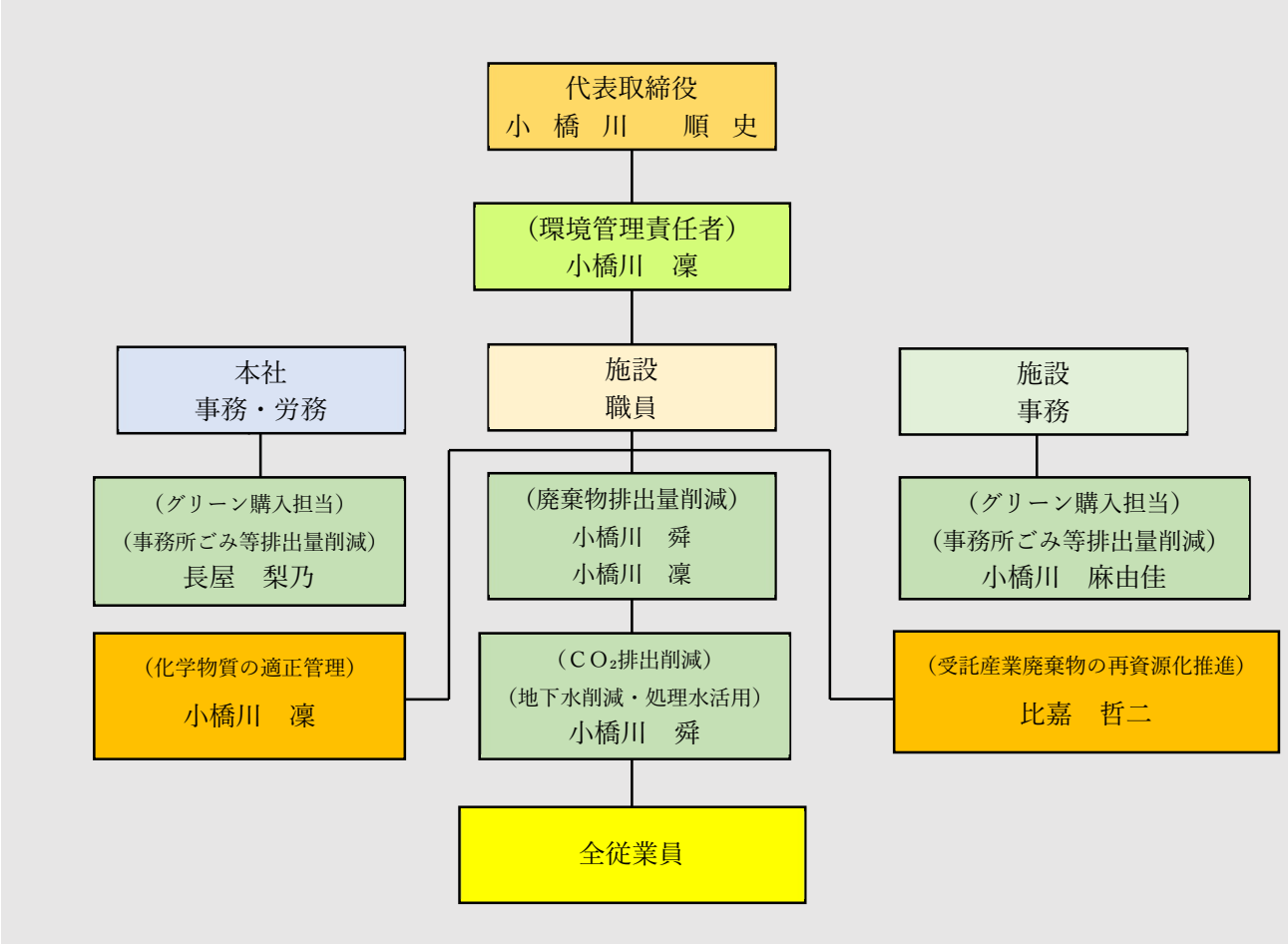
(廃油)



(8) 受託した産業廃棄物の収集・運搬及び処理処分量

区分	単位	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
収集・運搬	t	13,926	4,375	10,640	30,726	22,976
中間処理	t	13,926	4,375	10,640	30,726	22,976

(9)組織図(実施体制)



担当	役割・責任・権限
代表取締役	・経営における課題とチャンス进行明確化。 ・環境方針及び環境活動計画の決定及び改正 ・エコアクション 21 全体取組及びその効果を評価し、見直しを実施し必要な指示を行う
環境管理責任者	・ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築・運用・維持 ・環境活動レポート等の関係書類の確認、運用状況の把握、代表者への報告
廃棄物排出量削減	・分別の徹底、リサイクル率向上の立案・実施・指導
CO ₂ 排出削減	・各車両及び処分施設における環境負荷の立案・実施・指導
地下水削減・処理水活用	・地下水及び処理水の節水、処理水の有効活用における立案・実施・指導
受託産業廃棄物の再資源化推進	・処理土(処理水)の土質(水質)の管理 ・処理土(処理水)の有効活用における立案・実施・指導
化学物質の適正管理	・使用薬品・化学物質の適正使用および管理
グリーン購入	・グリーン製品及びエコ製品の採用
全従業員	・環境方針の理解、環境への取組の重要性の理解

(10)車両リスト

強力吸引車	13 台	天蓋付水密ダンプ	8 台
高压洗浄車	2 台	ダンプ	7 台
キャブオーバー	2 台		



2. エコアクション 21 の対象範囲

- ・当社は全組織・全活動を対象に、環境省の環境経営システムであるエコアクション 21 の認証を 2022 年 5 月 6 日に取得しました。
- ・これにより、現在の事業活動を通じて、汚水及び汚泥の適正処理を行い、循環型社会の形成及び環境負荷の低減に向けて、全社を挙げて環境経営に取り組んで参ります。

(1) 認証・登録事業者

株式会社 コバキュー

(2) 対象事業所

本社、処分場

(3) 対象事業活動

産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物中間処理



エコアクション21認証・登録証

3. 環境経営方針

環境理念

各工場や各工事現場から排出された汚水や汚泥を吸引・清掃・運搬し、自社の産業廃棄物処理施設にて適正処理を行い、循環型社会の形成及び環境負荷の低減に全従業員で取り組みます。

より良い環境を目指し、環境にやさしい社会に貢献する企業でありたいと思い、環境経営の継続的改善に取り組んでまいります。

行動指針

循環型社会の実現を図るため、次の行動指針を定めます。

1. 環境保全に関わる法令及び規則を遵守します。
2. 受託した産業廃棄物(汚泥)を再生資源化します。
3. 燃料・電気・水等の使用量をできる限り削減します。
4. 各車両のエコドライブを心掛けて、二酸化炭素排出量の抑制につなげます。
5. 廃棄物排出量の削減に努めます。
6. 化学物質の適正管理(削減は困難なため)に努めます。
7. グリーン購入を推進します。
8. 地域周辺の方々とのコミュニケーションを図り、環境美化に努めます。
9. 環境経営方針は全従業員に周知徹底します。
10. 環境経営レポートを作成し、要求に応じて配布・公表します。

2020年8月1日制定
2022年2月24日改定
株式会社 コバキユウ
代表取締役 小橋川 順史

4. 環境経営目標

- ・環境経営目標は、現在の事業環境を踏まえて2023年度から二酸化炭素排出量関連に汚泥1t当たりの原単位目標と廃棄物関連に再資源化率の目標を追加して、7項目15目標を設定し、2020年度から2024年度までの中長期計画として設定しました。
- ・削減目標は、基準年とした2019年度実績値に対して毎年1%ずつ削減し、2023年度は4%削減、2024年度までに5%削減を目指します。
- ・一般廃棄物排出量は、2021年度に排出量を計測し、2022年度から数値目標を設定しました。
- ・化学物質の適正管理につきましては、受託廃棄物の中間処理においてPRTR法対象化学物質を含む薬品を使用しないため、定性目標（適正使用量の順守・過剰投入の注意）を定めました。
- ・地下水使用量については、今年度に水道メーターを設置し、使用量の記録を行い、今年度の実績をもとに来年度からの削減目標を設定しました。

環境経営目標			単位	基準年	単年度目標	中長期目標			
				2019 年度 (2019 年 8 月 ～2020 年 7 月) 実績値	2020 年度 (2020 年 8 月～ 2021 年 7 月)	2021 年度 (2021 年 8 月～ 2022 年 7 月)	2022 年度 (2022 年 8 月 ～2023 年 7 月)	2023 年度 (2023 年 8 月～ 2024 年 7 月)	2024 年度 (2024 年 8 月～ 2025 年 7 月)
					(-1%)	(-2%)	(-3%)	(-4%)	(-5%)
1.二酸化炭素排出量の削減			kg-CO ₂	230,304	228,000	225,720	223,395	221,092	218,789
			kg-CO ₂ /t (汚泥1t 当たり)	17.32	—	—	—	16.63	16.46
(1)電気使用量の削減			kWh	9,127 * ¹	—	—	9,127 (実績値)	9,035 (-1%)	8,944 (-2%)
(2)軽油使用 量の削減	各車両	L	58,840	58,251	57,663	57,075	56,486	55,898	
		kg-CO ₂ /t (汚泥1t 当たり)	11.42	—	—	—	10.96	10.85	
	発電機	L	29,312	29,018	28,726	28,433	28,140	27,846	
		kg-CO ₂ /t (汚泥1t 当たり)	5.69	—	—	—	5.46	5.40	
2.一般廃棄物排出量の削減			kg	72 * ²	現状把握	72 (実績値)	71.3 (-1%)	70.6 (-2%)	69.9 (-3%)
			% (再資源化率)	—	—	—	—	100	100
3.産業廃棄物排出量の削減			kg	1,260 * ³	—	1,260 (実績値)	1,248 (-1%)	1,235 (-2%)	1,222 (-3%)
			% (再資源化率)	—	—	—	—	18	80
4.地下水使用量の削減			m ³	節水に努める				現状把握 (メーター設置)	2023 年度実績 値から目標設定
5.化学物質の適正管理			—	化学物質の適正管理に努める					
6. 受託産業廃棄物の 再資源化推進			% (再資源化率)	100	100	100	100	100	100
7.グリーン購入の推進			—	グリーン商品を優先的に購入する。					

備考)・購入電力の排出係数は沖縄電力(株)2019 年度調整後排出係数(0.744 kg-CO₂/kwh)を用いた。

* 1 電気使用量は、休憩室新設に伴い基準値の見直しを行った。2022 年度使用量を基準値とし、次年度から毎年 1%の削減を目標値とした。

・ () は基準年に対する削減率を示す。

・ 地下水については 2023 年度から水量メーターを設置して地下水使用の現状を把握する。

・ 一般廃棄物排出量は 2021 年度排出量(72 kg)を基準値とし、次年度から毎年1%の削減を目標値とした。

・ 産業廃棄物排出量は 2021 年度排出量(1,260 kg)を基準値とし、次年度から毎年1%の削減を目標値とした。

5. 環境経営計画

・環境経営目標を達成するため、以下の具体的な取組(活動項目)を設定しました。

環境経営目標	責任者	具体的な取組	スケジュール
1. 二酸化炭素排出量の削減	小橋川 舜 小橋川 凜	電気使用量の削減	
		使用しない箇所の照明の消灯、使用していない電子機器の電源OFFを徹底します。	通年
		軽油使用量の削減	
		①収集運搬ルートを事前に計画し無駄な走行をしません。	通年
		②急な発進、加速、停止を抑制します。	通年
		③発電機のメンテナンス・維持管理を徹底します。	通年
		④車両に無駄なものを載せない・忘れ物に注意します。	通年
		⑤不要なアイドリングは避け、エコドライブを意識します。	通年
		環境に配慮した設備更新を意識します。	通年
2. 一般廃棄物排出量の削減	長屋 梨乃 小橋川 麻由佳	① 弁当の空き容器は自宅に持ち帰ります。	通年
		② アルミ缶、スチール缶の分別を徹底します。	通年
		③ ペットボトルの使用を極力へらし、個人の使用済みペットボトルに関しては持ち帰りをルールとして徹底します。	通年
3. 産業廃棄物排出量の削減	小橋川 舜	① 廃油、廃バッテリー、廃板金部品など分別を徹底します。	通年
		② 混合ゴミにならないように分別を徹底します。	通年
4. 地下水使用量の削減	小橋川 舜	従業員への節水を呼びかける。	通年
5. 化学物質の適正利用	小橋川 凜	SDSに基づき適正利用・適正管理に努めます	通年
6. 受託産業廃棄物の再資源化推進	比嘉 哲二	処理土・処理水の有効利用を推進します。	通年
7. グリーン購入の推進	長屋 梨乃 小橋川 麻由佳	グリーン購入対象商品を優先的に購入します。	通年

2023 年改訂

6. 環境経営計画に基づき実施した環境への取組

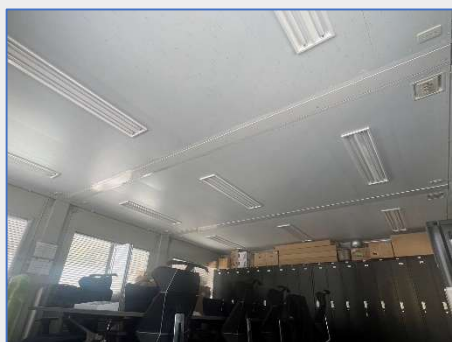
- ・ 今日、SDGsや2050年カーボンニュートラル等、地球規模の課題解決に向けた取組の社会的要請が強まっており、これらは今後の事業活動を継続・発展させる上で事業者の重要な責務と考えております。
- ・ 当社は2022年5月にエコアクション21の認証を取得し、環境経営システムを構築して循環型社会づくりやカーボンニュートラル、SDGsにも取り組んでおります。
- ・ 今年度は、環境経営計画に基づき以下の取組をSDGs (17のゴール) と紐づけて実施しました。

1. 二酸化炭素排出量の削減

(1) 電気使用量の削減



- ・ 使用しない箇所の照明の消灯、使用していない電子機器の電力OFFを徹底しています。
- ・ 照明器具は省エネ性能の高いLED照明に切り替えました。



昼休みの消灯



LED 照明 (処分場)

(2) 軽油使用量の削減 [発電機]



- ・ 発電機のメンテナンス・維持管理を徹底しています。
- ・ 発電機老朽化に伴い、省エネ型の新規発電機を導入しました。



発電機メンテナンスの様子



新規導入した発電機

(2) 軽油使用量の削減



- ・今年度は、燃費の改善を目的に高年式車両8台の導入を行いました。
- ・収集運搬時の最適なルートや積載量の厳守等のエコドライブを実施しています。
- ・低年式車両の積極的な入替を推進しています。



新規導入した天蓋付水密ダンプ



エコドライブの啓発ポスターの掲示

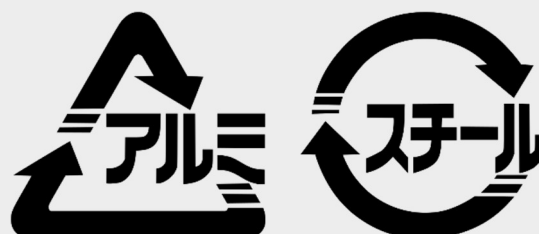
2. 一般廃棄物排出量の削減



- ・弁当の空き容器やペットボトルは持ち帰りをルールとしています。
- ・アルミ缶、スチール缶の分別をしています。



アルミ・スチール缶他の分別



3. 産業廃棄物排出量の削減



- ・廃油、廃バッテリー、廃板金部品など分別を徹底しています。
- ・混合ゴミにならないように分別を徹底しています。
- ・使用するセメントのフレコンバックを再利用可能なフレコンバックへ変更しました。



フレコンバック (再利用可)



導入したフレコンバック製品型式

4. 地下水使用量の削減



- ・啓発シール等を使って日常的に節水活動を行いました。
- ・今年度、水道メーターを設置し、使用量の記録を行いました。



設置した水道メーター



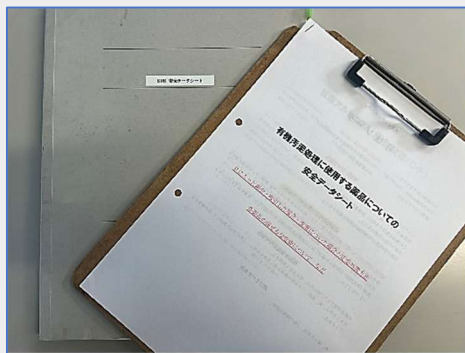
節水ポスターの設置



5. 化学物質の適正管理



- ・SDS と頻繁に使用する薬品の使用上の注意点・緊急時の応急処置方法などをまとめたデータシートを用いて、化学物質の適正管理・利用に努めています。



SDS による薬品管理用



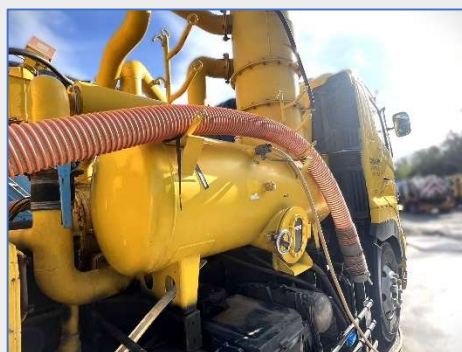
6. 受託産業廃棄物の再資源化推進



- ・受託産業廃棄物の再資源率の最大化に努めました。
- ・処理水は処分場敷地内の粉塵対策の散水、吸引清掃車の架装機械冷却水など、自社内での有効活用を実施しています。処理水・処理土ともに有効的・積極的利用の推進を継続していきます。



敷地内での散水



吸引車冷却水タンク給水(処理水)の様子

4. グリーン購入の推進



- ・事務用品はグリーン購入商品をカタログ・仕様書で確認して優先的に購入し、記録しています。

7. 環境経営目標の実績

- 2023年度は、設定した環境経営目標7項目15目標のうち、一般廃棄物再資源化、産業廃棄物再資源化、地下水使用量、受託産業廃棄物の再資源化推進、化学物質の適正管理、グリーン購入の6項目6目標で目標を達成できました。

環境経営目標		単位	基準年	2023 年度 (2023 年 8 月～2024 年 7 月)		目標 達成率	目標 達成 評価
			2019 年度 (2019 年 8 月～ 2020 年 7 月) 実績値	目標値	実績値		
				(-4%)			
1. 二酸化炭素排出量の削減		kg-CO ₂	230,304	221,092	502,325	44 %	×
		kg-CO ₂ /t (汚泥1t 当たり)	17.32	16.63	21.86	76 %	×
(1)電気使用量の削減		kWh	9,127	9,035 (-1%)	9,103	99 %	△
(2)軽油使用量の削減	各車両	L	58,840	56,486	138,257	41 %	×
		kg-CO ₂ /t (汚泥1t 当たり)	11.42	10.96	15.53	71 %	×
	発電機	L	29,312	28,140	52,638	54 %	△
		kg-CO ₂ /t (汚泥1t 当たり)	5.69	5.46	5.93	92 %	△
2. 一般廃棄物排出量の削減		kg	72	70.6 (-2%)	1,459	5 %	×
		% (再資源化率)	—	100	100	100%	○
3. 産業廃棄物排出量の削減		kg	1,260	1,235 (-2%)	18,130	7 %	×
		% (再資源化率)	—	18	78	430%	◎
4. 地下水使用量の削減		m ³	—	現状把握	16.5 (3 月～7 月)	—	○
5. 化学物質の適正管理		—	—	適正管理に 努める	適正管理に 努めた	—	○
6. 受託産業廃棄物の再資源化 推進		% (再資源化率)	100	100	100	100 %	○
7. グリーン購入の推進		—	—	対象商品を 優先的に 購入する	対象商品を 優先的に 購入した	—	○

備考)・達成状況の判定区分 ◎:120%≦目標達成率 ○:100%≦目標達成率<120% △:80%≦目標達成率<100%

×:目標達成率<80% —:判定不可

・目標達成率の計算

削減目標の場合: 目標÷実績×100、増加目標の場合: 実績÷目標×100

・一般廃棄物及び産業廃棄物排出量の基準年実績値は2021年度の排出量、及び電気使用量は2022年度を基準とした。

*単位省略 (kg-CO₂ / t) 計算式: 二酸化炭素排出量 (kg-CO₂) / 受託産業廃棄物量 (t)

2019年度汚泥1t当たりのCO₂排出量 全体CO₂排出量: 16.63 kg-CO₂ / t

各車両: 10.96 kg-CO₂ / t 発電機: 5.46 kg-CO₂ / t

上記より -4%した値を目標値とした。

1. 二酸化炭素排出量の削減

- 最大の環境負荷である二酸化炭素排出量は、総量の目標達成率が44%、汚泥1t当たりの原単位目標は76 %で目標を下回りました。これは、遠方への収集運搬業務の大幅増加、受託汚泥量増加による営業時間延長、新規導入設備の発電機負荷の増加などにより、軽油使用量が増加したためです。

(1). 電気使用量の削減

- 電気使用量の目標達成率は99%と目標をわずかに下回りました。受託産業廃棄物の取扱数量の増加に伴う営業時間の延長に加えて、作業員休憩所の照明およびエアコンが電気使用量増加の要因です。今後も使用時以外の照明、家電、電子機器の電源OFFをはじめとした節電活動を続けていき、目標達成を目指します。

(2). 軽油使用量の削減

- ・軽油使用量を総量でみると、各車両の目標達成率は41%、発電機は54%でいずれも目標を達成できませんでした。車両使用量に関しては、遠方への収集運搬業務の大幅増加、受託汚泥量の増加により、車両の運行距離と稼働時間が増加したため、使用量が増加する結果となりました。発電機使用量に関しては、受託汚泥量増加による施設稼働時間の増加と、汚泥処理設備の増設により、使用量が増加する結果となりました。
- ・汚泥1tあたりの収集運搬・処理に伴って排出された二酸化炭素排出量で比較すると、2019年度には、17.32 kg-CO₂/t-sludgeであり、2023年度は、21.86 kg-CO₂/t-sludgeとなり、増加比は1.3倍となりました。また、2023年度の受託汚泥量は2019年度の1.7倍になりました。受託汚泥量の増加量に対して二酸化炭素排出量が抑えられた理由としては、車両の高年式型への入替を積極的に行ったことや、老朽化した発電機を省エネ型発電機への入替を行ったことが挙げられます。
- ・今後も、低燃費車両の導入と入替、エコドライブ実施を継続し、目標達成へと努めて参ります。

2. 一般廃棄物の削減

- ・一般廃棄物は、主にアルミ缶と金属くずが占めており、適切な分別、売却を行い、再資源化100%を達成しました。今後もマテリアルリサイクルを意識した分別、廃棄、売却を推進していきます。

3. 産業廃棄物の削減

- ・産業廃棄物は、設備の更新により通常営業時と比較して大幅に増加した結果となりましたが、徹底した分別を行うことにより、昨年よりも大幅に再資源化率を高めました。また、汚泥の造粒固化に使用するセメントのフレコンバックを再利用可能な製品へと変更しました。これにより、年間約 1500 kg 以上の使用済フレコンバックの廃棄量減量が期待できます。今後も、適切な分別とリサイクルに取り組んでいきます。

4. 地下水使用量の削減

- ・今年度は、水道メーターを取り付け、使用した地下水の量を記録しました。今年度の使用量から来年度以降の目標値設定を行います。

5. 化学物質の適正管理

- ・使用する薬品の SDS データシートに加え自社用の簡易データシートを自作し、安全使用と適正量使用の啓発を行いました。また、社内での安全教育を実施しました。今後とも適正管理・使用を推進していきます。

6. 受託産業廃棄物の再資源化推進

- ・再生土の利用方法として、従来の埋戻土としての利用だけでなく、ゆいくる材の原材料や農地などでの利用をはじめとした様々な利用方法・価値を見出し、積極的使用の推進を行っていきます。
- ・処理水に関しては、処分場敷地内の粉塵対策の散水をはじめとして、吸引清掃車の架装機械冷却水や洗車に使用するなどの多岐にわたって自社内での有効活用を実施しています。今後とも節水意識と共に有効利用の推進に努めます。

7. グリーン購入の推進

- ・グリーン購入については、優先的に対象商品を選択・購入しました。今後は購入品目の拡大など、引き続きグリーン購入を進めて参ります。

8. 環境経営計画の取組結果と評価

- ・2023年度の環境への取組結果は以下のとおりであり、設定したほとんどの項目で取組が実施でき、良好な結果となっています。
- ・今後もこの取組を継続・発展させ、目標未達となった二酸化炭素排出量の軽油使用量の削減の取組については、重点項目と位置づけて、その取組を周知・徹底して、目標達成を目指していきます。

環境経営目標	目標達成状況	具体的な取組	取組実施状況	評価 (次年度の取組)
1.二酸化炭素排出量の削減	× 電気 △ 車両軽油 × 発電軽油 △	① 収集運搬ルートを事前に計画し無駄な走行をしません。	◎	・遠方への収集運搬量及び稼働車両、工場稼働時間の増加により、二酸化炭素排出量が増加しました。 ・車両及び施設設備の更新、高年式車両への入替、省エネ型機械の導入等により、受入汚泥量の増加量に対して、二酸化炭素排出量は抑制できた結果となりました。 ・エコドライブの実施と、環境に配慮した設備更新を心掛け、目標達成に向けて活動していきます。
		② 急な発進、加速、停止を抑制します。	○	
		③ 発電機のメンテナンス・維持管理を徹底します。	◎	
		④ 車両に無駄なものを載せない・忘れ物に注意する	○	
		⑤ 不要なアイドリングは避け、エコドライブを意識します。	○	
		⑥ 環境に配慮した設備更新を意識します。	◎	
		⑦ 使用しない箇所の照明の消灯、使用していない電子機器の電源OFFを徹底します	◎	
2.一般廃棄物排出量の削減	○	① 弁当の空き容器は自宅に持ち帰ります。	◎	・分別を徹底的に行い、可能な限り再生業者へ売却、排出をし、大幅に再生率を上昇させることができました。 ・個人排出ゴミの持ち帰りを推奨し実践しました。これにより、一般廃棄物の混合ゴミの減量を達成しました。 ・汚泥処理に使用するセメントのフレコンバックを再利用可能製品へ変更し、年間1500kg以上の廃棄物削減を行いました。 ・今後も、廃棄物の分別と再資源化を徹底し、3Rを意識した活動を継続します。
		② アルミ缶、スチール缶の分別を徹底します。	◎	
		③ 個人の使用済ペットボトルの持ち帰りを徹底します。	◎	
3.産業廃棄物排出量の削減	◎	① 廃油、廃バッテリー、廃板金部品など分別を徹底します。	◎	・引き続き適正利用・管理に努める
		② 混合ゴミにならないように分別を徹底します。	◎	
4.地下水使用量の削減	○	従業員への節水を呼びかける。	○	・節水意識も定着している。 ・次年度の目標達成を目指す。
5.化学物質の適正利用	○	SDSに基づき適正利用・適正管理に努めます	◎	・引き続き適正利用・管理に努める
6.受託産業廃棄物の再資源化推進	○	処理土・処理水の有効利用を推進する	◎	・引き続き処理土・処理水の有効利用を続ける
7.グリーン購入の推進	○	グリーン購入対象商品を優先的に購入します。	○	・引き続きグリーン商品を優先的に購入する。

備考) 目標達成状況判定区分 ◎:120%≦目標達成率 ○:100%≦目標達成率<120% △:80%≦目標達成率<100%

×:目標達成率<80% ー:判定不可

取組実施状況判定区分 ◎:よく実施できている(定着) ○:実施できている △:ほぼ実施できている

×:実施できていない ー:判定不可

9. 次年度の取組

・2023 年度の環境経営目標運用成績を踏まえて、次年度(2024 年度)計画は以下の通りとします。

(1)環境経営目標(2024年度)

・2023 年度の目標達成状況は概ね良好な結果であったため、中長期目標の 2024 年度を適用しますが、受入汚泥量が増大しているため、これを考慮した原単位目標(2023 年度改定)と再資源化率目標(2023 年度改定)を引き続き採用することとしました。

環境経営目標			単位	基準年	単年度目標	中長期目標			
				2019 年度 (2019 年 8 月 ～2020 年 7 月) 実績値	2020 年度 (2020 年 8 月～ 2021 年 7 月)	2021 年度 (2021 年 8 月～ 2022 年 7 月)	2022 年度 (2022 年 8 月 ～2023 年 7 月)	2023 年度 (2023 年 8 月～ 2024 年 7 月)	2024 年度 (2024 年 8 月～ 2025 年 7 月)
					(-1%)	(-2%)	(-3%)	(-4%)	(-5%)
1.二酸化炭素排出量の削減			kg-CO ₂	230,304	228,000	225,720	223,395	221,092	218,789
			kg-CO ₂ /t (汚泥1t 当たり)	16.63	—	—	—	16.63	16.46
(1)電気使用量の削減			kWh	9,127 *1	—	—	9,127 (実績値)	9,035 (-1%)	8,944 (-2%)
(2)軽油使用 量の削減	各車両	L	58,840	58,251	57,663	57,075	56,486	55,898	
		kg-CO ₂ /t (汚泥1t 当たり)	11.42	—	—	—	10.96	10.85	
	発電機	L	29,312	29,018	28,726	28,433	28,140	27,846	
		kg-CO ₂ /t (汚泥1t 当たり)	5.69	—	—	—	5.46	5.40	
2.一般廃棄物排出量の削減			kg	72	現状把握	72 (実績値)	71.3 (-1%)	70.6 (-2%)	69.9 (-3%)
			% (再資源化率)	—	—	—	—	100	100
3.産業廃棄物排出量の削減			kg	1,260	—	1,260 (実績値)	1,248 (-1%)	1,235 (-2%)	1,222 (-3%)
			% (再資源化率)	—	—	—	—	18	80
4.地下水使用量の削減			m³	節水に努める				16.5 (3 月～7 月)	39.2(-1%)
5.化学物質の適正管理			—	化学物質の適正管理に努める					
6. 受託産業廃棄物の 再資源化推進			% (再資源化率)	100	100	100	100	100	100
7.グリーン購入の推進			—	グリーン商品を優先的に購入する。					

備考)・購入電力の排出係数は沖縄電力(株)2019 年度調整後排出係数(0.744 kg-CO₂/kwh)を用いた。

・()は基準年に対する削減率を示す。

・*1 電気使用量の基準値は 2022 年度実績値で示す。

・二酸化炭素排出量と軽油使用量は受入汚泥 1t 当たりの CO₂ 排出量の原単位目標を示す。(単位: kg-CO₂ / t)

計算式 : 二酸化炭素排出量 (kg-CO₂) / 受託産業廃棄物量 (t)

・地下水については 2023 年度から水量メーターを設置して地下水使用の現状を把握する。

・一般廃棄物排出量は 2021 年度排出量(72 kg)を基準値とし、次年度から毎年1%の削減を目標値とした。

・産業廃棄物排出量は 2021 年度排出量(1,260 kg)を基準値とし、次年度から毎年1%の削減を目標値とした。

・電気使用量は、休憩室新設に伴い基準値の見直しを行った。2022 年度使用量を基準値とし、次年度から毎年 1%の削減を目標とした。

・地下水使用量は、2023 年度実績値から月平均使用量を求め、その値に 12 倍した値から、毎年 1%の削減を目標値とした。

(2)環境経営計画(2024年度)

・基本的な取組に変更はないが、目標未達となった環境負荷の最も大きい二酸化炭素排出量(特に軽油排出量)の削減について重点項目として位置づけ、社員一同で徹底して取り組みに努めます。

10. 環境関連法規等の違反、 訴訟等の有無

- ・当社の事業活動に対して、適用される環境関連法規等は次のとおりです。
- ・2023年度事業活動において法令遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

	主な適用法規	遵守すべき要求事項	遵守状況
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物収集運搬業許可の届出 産業廃棄物処理施設許可の届出 産業廃棄物処分許可の届出 収集運搬車の表示・書面の備付 マニフェストの保管・管理 マニフェスト発行状況の行政報告	○
2	自動車 Nox・PM 法	排ガスの抑制	○
3	特定特殊自動車排ガスの規制等に関する法律(オフロード法)	特定特殊自動車の使用の制限	○
4	騒音規制法	騒音の規制基準の遵守、騒音記録の実施	—
5	使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	使用済自動車の引渡義務	○
6	特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	製品廃棄の際の適切な引渡	○
7	フロン排出抑制法	簡易点検の実施(実施頻度:3か月に1回以上)	○
8	浄化槽法	保守点検(4か月に1回以上)・清掃・法令点検の実施	○
9	水質汚濁防止法	水質測定・測定結果記録の保存(3年間)	○
10	土壌汚染対策法	土質測定・測定結果記録の保存(3年間)	○
11	特定化学物質排出把握管理促進法	指定化学物質の排出量の把握及び届け出	—
12	消防法	消防訓練の実施、消防設備の点検、廃油原因の火災予防	○
13	毒物及び劇物取締法	化学物質の適正管理、保管、取扱	○

備考) 遵守状況判定区分 ○: 遵守 ×: 不遵守 —: 該当なし

11. 代表者による全体評価と見直しの結果

・2023年度運用期間終了後に、代表者による当該年度の取組状況の全体評価と次年度計画の見直しの必要性を検討しました。結果は以下のとおりです。

評価	環境経営システムが有効に機能しているか	・環境経営システムは有効に機能している。 ・今後とも、環境経営システムのアップデートを重ねながら、エコアクション 21 に取り組んでいく。
	環境への取組は適切に実施されているか	・環境への取組は適切に実施されている。 ・例として、汚泥受入量の増加量に対しての二酸化炭素排出量の増加量は半分程度である。環境経営目標は達成できていないが、二酸化炭素排出量を抑えることができたのは、当社の取組に効果があったからだと考える。 ・環境経営目標の見直しを行い、社員のエコアクション21運用への意欲向上を促したい。
見直し	環境経営方針変更の必要性	・環境経営方針は、社内での周知を行い、環境理念と行動指針に沿ったエコアクション 21 運営を実施できていると感じた。 ・今後とも、社内での周知、環境教育等を行い、環境経営目標の達成を目指す。
	環境経営目標 環境経営計画 実施体制	・環境経営目標において、重要な位置づけである 3 項目が目標未達成となった。 ・エコアクション 21 認証取得から 3 年目、運用開始から 4 年が経過し、導入当初よりも事業規模、運用設備(車両)の性能と数、特に汚泥受入量は大幅に増加または上昇した。 ・そのため、当初設定した基準値では、単純な燃料使用量や廃棄物排出量の目標値達成は難しい取組となった。したがって、削減量のみではなく、再資源化率や、汚泥 1tあたりの二酸化炭素排出量など、弊社の取組が可視化しやすい目標設定を本年度から取り入れ、今後もこの新たな目標設定を継続することとした。これにより、環境経営目標達成に向けての道筋と、従業員一同の意識向上に期待する。
	その他環境経営システムの要素	2.環境負荷、取組の把握及び評価 5.環境経営目標、環境経営計画の策定 ・二酸化炭素排出量の削減目標について、新たな基準設定の必要性を感じた。 ・一般/産業廃棄物の削減量についても、排出量の管理のみではなく、細かな分別などの取組の可視化と評価が適切に行えるように再資源化率の目標設定を行い、本年度からの運用を開始し、今後も継続する。



2024 年 10 月 5 日
株式会社 コバキユウ
代表取締役 小橋川 順史